



安全データシート

会社名 三和合名会社
住所 愛知県名古屋市中区丸の内3丁目1-28
担当部門 商品管理部
担当者 原 育三
TEL番号 052-961-0481
FAX番号 052-961-0485

令和元年8月6日

製品名 (化学名、商品名等) メタノール

危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体：区分2

健康に対する有害性

急性毒性(経口)：区分4

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分2

生殖毒性：区分1B

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分1

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：区分3(麻酔作用)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：区分1

(注)記載なきGHS分類区分：該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

H225 引火性の高い液体及び蒸気

H302 飲み込むと有害

H319 強い眼刺激

H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

H370 臓器の侵害

H336 眠気又はめまいのおそれ

H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

特定の物理的及び化学的危険性

非常に燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

組成及び成分情報

混合物/単一化学物質の選択：化学物質

成分名	含有量	CAS NO.	化審法
メタノール	99%以上	67-56-1	優先評価化学物質

危険有害成分

毒物及び劇物取締法「劇物」該当成分：該当
安衛法「表示すべき有害物」該当成分：該当
安衛法「通知すべき有害物」該当成分：該当

応急措置

応急措置の記述

吸引した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。

無理に吐かせないこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

飲み込んだ場合、直ちに医師の診察を受け、医師にその容器又はラベルを見せる。

火災時の措置

消火剤

適切な消火剤：火災の場合は霧状水、泡、耐アルコール泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

特有の危険有害性

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法：関係者以外は安全な場所に退去させる。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

火災の場合：安全に対処できるならば漏洩を止めること。

漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

：関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

着火源を取り除くとともに換気を行う。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

安全に対処できる場合は漏洩を止める。

密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項：漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

：不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

乾燥した土、砂、不燃材料に吸収もしくは覆って容器に移す。

清浄な帯電防止工具を用いて吸収したものを集める。

漏洩物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地する。

二次災害の防止策：着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

危険でなければ漏れを止める。

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)

排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流出を防ぐ。

取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱者のばく露防止

: 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

火災・爆発の防止

: 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を接地しアースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。

安全取扱注意事項

: 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋及び保護面を着用すること。
保護眼鏡/保護面を着用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。

配合禁忌等、安全な保管条件

適切な保管条件: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

ばく露防止及び安全措置

管理指標

管理濃度 : 作業環境評価基準(1995) ≤ 200 ppm

許容濃度 : 日本産衛学会(1963) 200ppm; 260mg/m³(皮)

ACGIH(2008) TWA: 200ppm

STEL: 250ppm(頭痛; 眼障害; めまい; 吐き気)

注釈(症状、摂取経路など)

皮膚吸収

ばく露防止

設備対策

: 適切な換気のある場所で行う。
排気/換気設備を設ける。
洗眼設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

: 呼吸用保護具を着用すること。
空気呼吸器(SCBA)を着用する。

手の保護具

: 保護手袋を着用する。

眼の保護具

: 側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。
保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

: 保護衣を着用する。

衛生対策

: 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

物理的および化学的性質

基本的な物理的および化学的性質に関する情報

物理的状态

形状 : 液体

色 : 無色、透明

臭い : 特有臭

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点 : 64.6°C

融点/凝固点 : -96°C

引火点 : (メタノール) 12°C

自然発火温度 : 464°C

爆発特性 : 引火又は爆発範囲
 下限 : 5.5vol%
 上限 : 44vol%
 蒸気圧 : 12.3kPa (20C)
相対蒸気密度(空気=1) : 1.1
20℃での蒸気/空気混合気体の相対密度(空気=1)
 : 1.01
比重/密度 : 0.79
溶解度
水に対する溶解度 : 混和する
n-オクタノール/水分配係数
 : log Pow-0.82/-0.66

安定性及び反応性

化学的安定性 : 通常の保管条件/取扱い条件において安定である。
 常温、常圧で安定。
危険有害反応可能性 : 蒸気は引火して爆発する恐れがある。
混触危険物質 : 酸化性物質

有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

human LD50=ca, 1400mg/kg (DFGOT vol. 16, 2001)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

区分外 rabbit LD50=15800mg/kg (DFGOT vol. 16, 2001)

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

区分外 vapor:rat LC50>31500 ppm/4hr (DFGOT vol. 16, 2001)

労働基準法 : 疾病化学物質

該当

局所効果

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

ラビット 区分2 : Draize test (EHC 196, 1997)

感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性データなし

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

cat. 1B; mouse: PATTY 5th, 2001

催奇形性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

中枢神経系、視覚器、全身毒性 (DFGOT vol. 16, 2001)

[区分3 (麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

麻酔作用 (PATTY 5th, 2001)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)
[区分1]
[日本公表根拠データ]
中枢神経系、視覚器(ACGIH 7th, 2001)
吸引性呼吸器有害性データなし

環境影響情報

生態毒性
水生毒性
水生毒性(急性)成分データ
[日本公表根拠データ]
甲殻類(ブラインシュリンプ) LC50=900.73mg/L/24hr (EHC196, 1998)
水溶解度
100g/100ml (PHYSPROP Database, 2009)
残留性・分解性データなし
生体蓄積性
log Pow=-0.82/-0.66 (ICSC, 2000)
土壌中の移動性データなし
オゾン層破壊物質データなし

廃棄上の注意

廃棄物の処理方法 : 環境への放出を避けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

エアゾール製品に関する高圧ガス保安法の警告注意表示
: 使い切って捨てること。

汚染容器及び包装 : 内容物を使い切ってから容器を捨てること。

輸送上の注意

国連番号、国連分類
国連番号 : 1230
正式輸送名 : メタノール
分類又は区分 : 3
副次危険 : UNSUBRISK6.1
容器等級 : II
指針番号 : 131

MARPOL条約附属書III 一個品有害物質による汚染防止

海洋汚染物質(該当/非該当) : バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II
改訂有害液体物質及びIBCコード
有害液体物質(Y類)
該当

適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法

劇物(第2条別表2)
該当(法令番号83)

労働安全衛生法

有機則 第2種有機溶剤等
該当(法令番号83)

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
名称表示危険/有害物
該当(別表第9の560)

名称通知危険/有害物
該当(別表第9の560)
別表第1危険物(第1条、第6条、第9条の3関係)
危険物・引火性の物(0°C≦引火点<30°C)
化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。
消火法
第4類 引火性液体アルコール類 危険等級Ⅱ(指定数量 400L)
化審法
優先評価化学物質
該当(政令番号90 人健康影響)
大気汚染防止法
特定物質
該当
船舶安全法
引火性液体類 分類3
航空法
引火性液体 分類3

その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals,
(5th ed., 2013), UN Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS
20th edit., 2017 UN Classification, labelling and packaging of substances
and mixtures(table3-1 ECN06182012)
2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2018 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>
JIS Z 7253 (2012年)
JIS Z 7252 (2014年)
2018 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データの基づいて作成しており、
新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の手配を
対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上で
ご利用ください。
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ(NITE)
です。